

「長信↓短信」

**野々宮雪** 入会して二年たちました。毎月届く「心の花」誌、首を長くして待つております。殆ど隔からすみまで読みますので、いつもバッグに忍ばせています。編集の皆様感謝しています。ご苦勞様でございます。いいお年をお迎え下さいませ。

**岡本秀美** 宇都宮とよ先生の選歌の終了を知り、十二月号で最後の担当の選歌の中に私の四首もあり、忘れられない歌となりました。お疲れ様でした。最後に先生の選歌の中にある幸運を感じております。坂田真民さんの詩をテーマにしましたが、大らかな宇都宮先生のイメージと重なるかんじがして、不思議な思いです。

**松田佐保子** この十一月の終りに五日程東京に遊びにいき、二子玉川のエクセル東急に宿泊し、連日28階の窓から多摩川を見、富士山もみることができました。帰る日に、玉川4―37―10をホテルの地図を片手に探して歩きました。30分程で行くことができ、あゝここが四年間毎月私の歌をどけていたお家なんだなあと明るく灯のもったお宅とお庭を道から拝見して感慨深かったです。

**勝島靖夫** 佐佐木邸の梅は白梅が先に咲きて、そのあと紅梅が咲く、らしい。それはそうなのであろう。ところが面白いことに、たまたま読んでいる『地中銀河』高野公彦歌集に次の作品がある。

・時遅く過ぎゆくたのし紅梅の花  
咲くわきに白梅つぼむ  
・紅梅に次ぎて咲きつつ白梅のを  
とつひ、きのふ、けふの純白  
この歌は佐佐木邸の梅の木の白梅、紅梅とちがうようだ。  
来ん春には奈良地方の梅はどうなのか、私なりに観察するつも

り、である。心の花十二月号の「佐佐木幸綱の一首」を読んで、楽しみが一つできた。

**松本実穂** 百合絵さん、お変わりなくお元氣そうでした。

クリスマス直前の某日、リヨンに留学中の安田百合絵さんが自宅に遊びに来てくれました。百合絵さんとは2013年5月のジュネーブミニ歌会からのお付き合い。学校の課題やアパルトマン探しなどで忙しくされていたようですが、ようやく落ち着かれた様子でした。好きな歌人の話や「ポエジーとは：」などと語りつつ、気が付けば机の上に歌集やアンソロジーなど本が広がり、なんと五時間半も短歌話に、あくまで静かに（笑）盛り上がりました。実は

来崎。新聞記者である夫君宮下さんが、結婚以来初めてお正月休みがとれたとのことでした。  
到着すると直ぐに小紋さんの所へ。宮下さんは懐しそうに、小紋さんをはじめ「心の花」の方々が、大口さんの歌集『東北』の出版祝いに、石巻に集まって下さったことを話されました。  
こうやって、小紋さんを見舞って下さる方々を見ると、短歌を縁に結社のもとに集った歌人たちは、やがて心を通わせ、一族の態をなしていくのだなあと感じます。

二月には、高山邦男さん来崎予定。  
**加賀谷実** 垂乳根の余毛喜多が声をコロコロと「今度の全国大会は秋田になりそう」と言ったのは確か二年前の事だったか？「心の花のか」と言えば「そうだ」と言う。「そんな簡単に受けて良いのか」と重ねて問えば「隣の近所の県の人や東京歌会の人等も助けしてくれるもの大丈夫」と声を弾ます。その辺で小生も「ああそうかいいつがやりたいんだ」と得心か

私が心の花に入会したのはそのジュネーブ歌会がきっかけ。四年半前の詠草にも話は遡りました。次回はリヨン歌会かパリ短歌会に参加頂ければと思っています。  
**古川典子** 十二月三十一日、宮崎の大口玲子さんが、親子三人車で